

(3) 経年変化 (図1-3)

- CODは、最高値・湖心とも、過去5年の変動範囲内で推移
- 全窒素・全りんは、最高値・湖心とも、昭和59年以降最も低い値

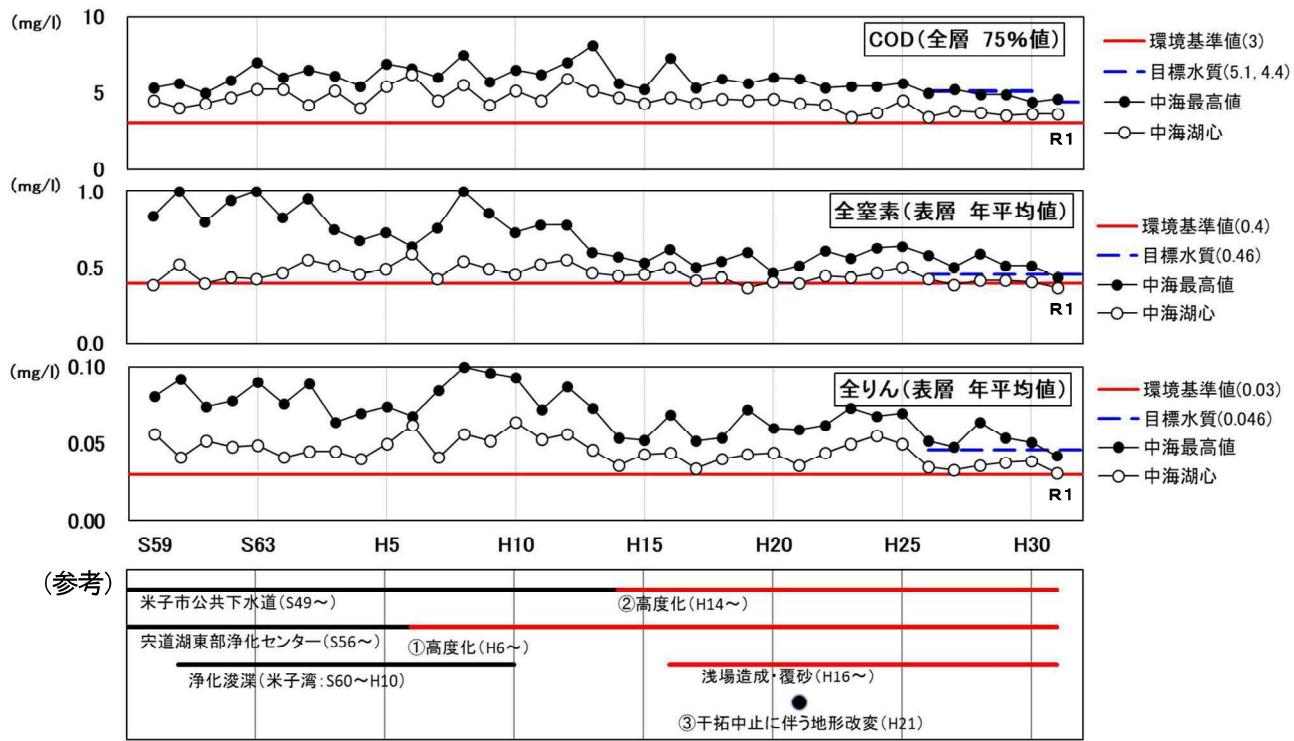
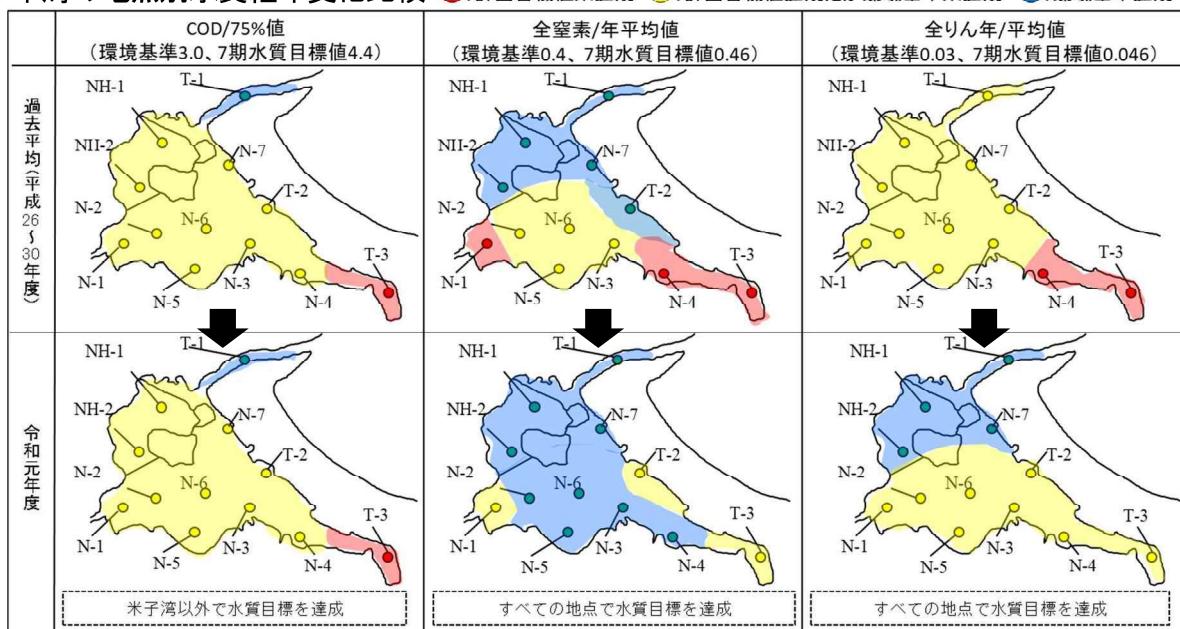


図1-3 中海の水質の経年変化

※ 湖心部、米子湾の水質に対して、全窒素、全りんについては①の前後、②の前後で水質が改善、③の前後では、大きな傾向変化は見られず、下水道の整備および高度処理化による水質改善が大きく寄与していると考えられる

備考: CODは、第7期計画(R元～R5年度)より目標値を強化(5.1(mg/l)から4.4(mg/l))
「最高値」とは環境基準点のうち、各年度において最も高い地点の値

(参考) 中海の地点別水質経年変化比較



※ 図中の着色は、各地点の水質を次の区分で分類した場合における中海全体の水質を概念的に表したもの

※ 第7期計画(R1～R5)からCOD目標値が4.4へと引き下げられており、過去平均(H26～H30)についても新基準(目標値4.4)で再評価

